

		中間評価	
		経過・達成状況	改善方策
1 社会で 生き抜く 力を身につける	① ②	幼稚園部 ・一日の出来事の振り返りや心に残った活動について手話や音声で表現することができつつあるが、活動のことばの定着や表現内容の拡がりや深まりはまだ十分とは言えない。 ・毎日の絵本の時間を楽しみにし、絵本の世界に入って、自然に体を動かしたり、お話に参加したりする様子が見られるようになった。毎週の絵本の貸し出しでは、借りたい本のジャンルやレベルにまだ偏りが見られる。	B ・ことばの定着に向けて、口声模倣、拡充模倣、手話の模倣を大切にしたりかかわりをする。 ・午後の活動時間の調整により、写真日記で一日を振り返る時間を十分に確保し、体験したことや思いをことばにするやりとりの充実を図る。 ・個々の興味・関心を広げることができるよう、多様な絵本を取り上げるとともに、子どもの実態に合った本を選ぶように声かけをする。
	小学部	・児童にわかりやすいことばや絵でめあてを提示したり、ふりかえりの時には自己評価をしたり、教師が評価し、一緒に確認したりして進めている。 ・掲示や学習環境等、学級で工夫し、視覚的な支援をしている。今後は、学習の積み上げがわかる掲示等工夫していく必要がある。 ・それぞれの実態に応じた学習を行い、児童の学力の定着が見られている。今後は、学習状況の共有理解できる場を設定していく必要がある。	B ・引き続き、児童の実態に応じた掲示や学習環境を工夫するとともに、学習の積み上げ、継続性がわかる掲示等を行う。 ・児童の実態や支援について共有するとともに、学習の進度や習熟についての共通理解も学部会等で定期的に行う。
	教育研究部	・各学部で幼児・児童一人一人の実態把握や共通理解のもと、計画的に授業実践を行い、研修や授業研究会、学部会、ITの打ち合わせ等を日々の実践に活かすことができている。幼児・児童が様々な場面で、自分ら考え、伝えようとする「伝える*考える*見つめる」姿が見られるようになってきている。 ・聴覚障がい教育の基礎研修やエキスパート教員の専門性の高い授業の参観、参観ウィーク、一人一研究授業等で授業を見合うことで、指導力や専門性を高め、日々の実践に活かしている。また鳥聾スタンダードの中間評価を行うことで、自身を振り返り、指導を見直し良い授業づくりに努めることができている。 ・個々の幼児・児童の実態把握や自立活動個別の教育指導計画の目標設定のために、自立活動指導プログラムを活かしている。	B ・授業を見合える機会を大切に、引き続き取り組んでいく。一人一研究授業の機会を捉え、事前事後研修をより充実させることで、指導内容や指導方法等の習熟・拡充を図る。 ・目標設定や実践時の困り感や参考になった点、改善点などを随時意見交換したり、学部内で共通理解する機会を持つ。 ・参観ウィークや一人一研究授業の意見交換を元にして、より専門性を高め、指導にあたる。 ・研修にできるだけ多くの職員が参加できる機会を確保する。 ・自立活動プログラムの活用状況等、学部で把握し、見直し改善を図っていく。
2 こうなり たい自分・ 夢をもつ	③ ④	幼稚園部 ・毎日ていねいに活動を繰り返していくことを通して、自分のできることが増え、見通しを持って活動するようになってきている。しかし、新しいことや自信の持てない活動は、受け身がちになったり消極的になったりする姿が見られる。 ・職業に対する関心・意識はまだ十分でなく、大きくなったら何になりたいかななどのイメージを持つことが難しい。	B ・さまざまな事象への興味や関心の幅が広がるかかわりの実践の積み重ねをするとともに、過支援にならないことばかけや支援の方法を学部内で共通理解する。 ・誕生会を機に、「大きくなったら何になりたいか」を考え、みんなの前で発表する時間を入れる。また、身近な人の仕事内容を知ったり、絵本を活用したりして、いろいろな仕事を知る機会をつくる。
	小学部	・友達のよいところや頑張っているところを教師が意図的に認めるようなことばかけをすることで、友達同士で頑張りを認め合える発言や姿が増えてきている。 ・スケジュールや当番表を確認しながら、自分の担当する係活動等に取り組んでいる。	B ・教師が友達のよいところに気づけるような声かけをしたり、見本を示したりする。 ・引き続き、協力して行う活動や場面を設定する。 ・自分の担当する係活動や当番の仕事の様子を通信・ホームページ等で紹介したり、掲示したりする。
	支援部	・毎月、食べ物や動物、色名称等の絵カードを家庭に配布した。今年度から絵カードにひらがなをつけたところ、文字についての意識が高まり、親子のやりとりにもつながった。 ・1学期に保護者研修希望アンケートを実施した。保護者は、きこえやことばの発達、子育て、聾学校の教育について等様々なことを知りたいと思っていることがわかった。 ・保護者研修プログラム作成に向けて、過去の保護者研修会や他校の実践の資料収集を行った。	B ・教育相談活動中に絵日記を親子でかく時間を設け、保護者に絵日記についての理解を深める。 ・収集した資料をもとに、保護者研修会を行う。その内容をもとに、改善検討を行い保護者研修プログラムを完成させる。
3 あきら めない体 力・気力	⑤ ⑥	幼稚園部 ・毎日のリズム遊びや運動を通して、楽しみながら体を動かすことで体の動かし方が上手になり、できる動きが増えてきている。また、運動会を通して、楽しんで体を動かす姿も見られている。	B ・運動の時間を十分に確保したり、基本運動のパリエーションを持たせたりするなど、いろいろな体の動きができるように活動を工夫する。
	小学部	・体力づくりのダンスを楽しんでいる様子が見られている。 ・できなかった動きに主体的に取り組むことで、できるようになり、達成感を感じている児童もいる。	B ・体育の内容と連携しながら、実態に応じた内容を工夫する。 ・引き続き、体力づくりの内容等を保護者に通信等で紹介し、保護者への啓発を図っていく。
	健康安全部	・子どもたちが楽しみ、体力を向上できる遊びを検討しているが、具体的な遊びの紹介には至らなかった。 ・地域に出かけて体を動かすために、地域のイベントについて情報提供しようとしたが、地域の動きはほとんどなく情報等がなかった。	C ・子どもたちが元気よく体を動かせるように、活動内容や場を検討し、紹介することで、子どもたちの体づくり、健康づくりに取り組む。 ・第7波が収束したことから、健康づくりのイベントが増えてくると考えられる。地域の情報を集め、保護者に積極的に紹介していく。
4 キャリア 教育の推 進	〇〇 関係保 護者機 関の参 画連 携	支援部 ・西部地区難聴特別支援学級担任と年5回の情報交換会（4回はミニ情報交換会）を計画した。夏季休業中に実施した会では、自立活動、自己認識、進路選択等の情報や意見交換をすることができた。 ・県の「新生児聴覚検査と聴覚障がい児支援のてびき」の内容から乳幼児教育相談の役割について支援部内で確認し、ニーズに合わせた対応の準備をした。	B ・西部地区難聴特別支援学級の担任とともに、情報交換会の実施方法や回数、内容について話し合い検討し実施する。 ・最早期の教育相談についての内容や保護者配布資料等をまとめて、実践活用できるようにする。
	キャリア部	・キャリア教育だよりや就労促進セミナーの動画配信で、卒業生の就労について紹介し、キャリア教育への意識向上を図った。 ・今年度新しい書式となった個別の教育支援計画についてキャリア教育だよりで知らせたり、懇談で話し合ったりして、保護者と一緒に作成した。 ・職員に資料を配布し、合理的配慮についての考え方の共通理解を図った。	B ・引き続き、キャリア教育だよりの発行や懇談などを通して、保護者に幼児児童の将来のイメージやキャリア発達について理解を図る。 ・支援会議等の時に個別の教育支援計画を積極的に活用していく。 ・保護者アンケートの内容や取り組み方について職員で検討し、保護者のニーズ等の把握に向けた保護者アンケートを実施する。
5 業務改 善の推 進	(1)削減目標の達成	・月2回の「早く帰らあデイ」を行うとともに、衛生委員会で月ごとの振り返りを行い、少しずつ意識が高まってきている。7月・8月に「月40時間以上の教職員が0%」を達成した。	A ・職員一同で健康管理の意識を高めることが、よりよい教育実践につながることを日々振り返り確認し、お互いに声をかけあう職員集団づくりを行う。 ・行事等で時間外勤務が増える可能性が高いので、幼稚部棟の消灯・鍵閉め時間を決めて、計画的な業務の推進を促す。 ・コロナ対応による計画変更等を円滑に行えるように、職員朝会時やグループボード等を使って日頃から情報共有する。 ・業務過多にならないように、各学部の運営を確認しあったり、全体を調整したりする機会を定期的に設ける。（企画会議等）
	(2)運営の見直し	・新しい校務分掌表に基づいた担当からの提案や働きかけ、ふり返りがスムーズに行われている。コロナ対応による計画変更等を臨機応変に対応し、協力して乗り越えることができている。提案前の教職員間の情報交換や確認を意識づけて、より円滑な運営をしていく。	